

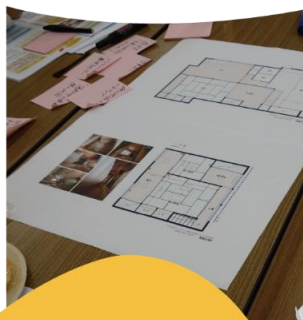


概要版

ホール
図書館
子育て
生涯学習
カフェ

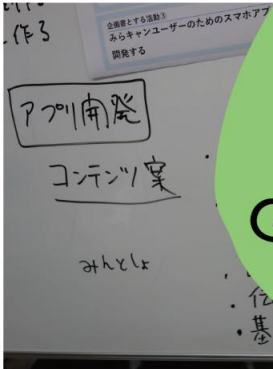
がまごおり「みらいキャンバス」基本計画

ー全市利用型施設 リーディングプロジェクトー



学ぶ

発信する



出会う

くつろぐ

GAMAGORI MIRAI CANVAS

がまごおり「みらいキャンパス」とは、
みんなの居場所と活動の場を、
市民と共に描くプロジェクトです。

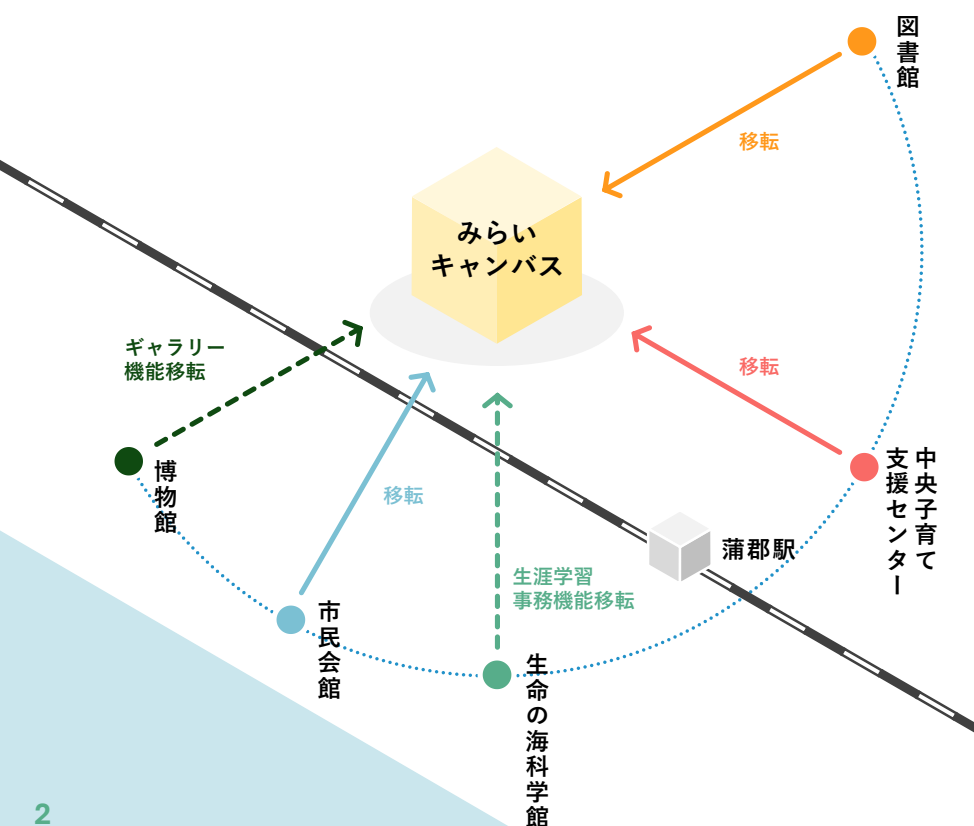
蒲郡駅周辺エリアにおいて、図書館や市民会館などの施設を複合化し、
市民の居場所・活動拠点となる場を創るプロジェクトです。

こどもからシニア世代まで、みんなの居場所となり、
様々な活動ができる施設を目指しています。

基本理念を「共創」と位置づけ、

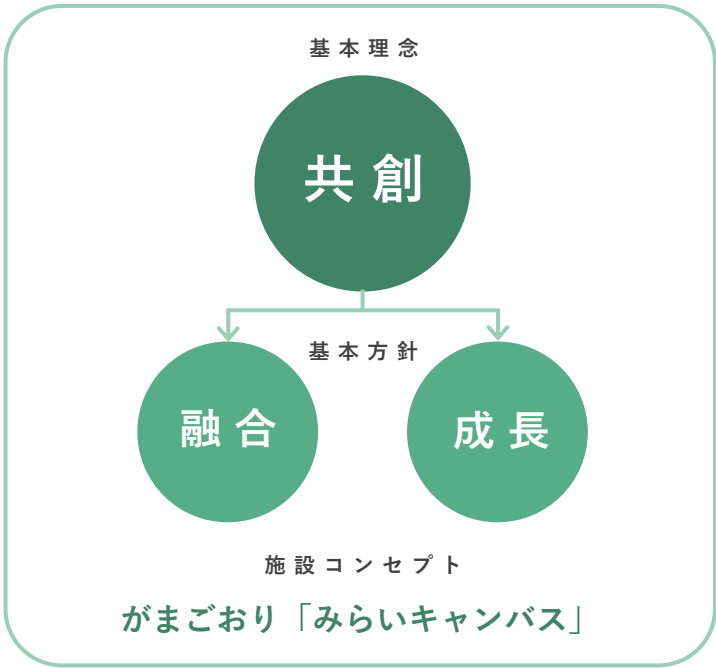
市民と一緒にがまごおりのみらいを描いていきます。

基本計画（本計画）は、基本構想で描かれた施設像を、
より具体的な事業・サービスや機能、運営の方向性として位置づけ、
次の準備段階へつなげるための計画です。



基本方針

がまごおり「みらいキャンパス」は、市民が未来を自由に思い描き、実現に向けて一歩踏み出せるような施設を目指しています。そのために、施設のそれぞれの機能は、縦割りにならず、お互いに連携し合いながら、柔軟に人々のやりたいという目的に向かって融合していくことが大切です。基本理念である「共創」をかたちにし、施設と運営が一体となって取り組むべき方向性を基本方針として定めます。



基本方針

1 いつも多様な関心・活動と出会える、融合した施設・運営

- 市民が「やりたいこと」を思うままに実現できるよう、枠組みにとらわれず、機能同士、スペース同士を溶け合わせます
- 多様な関心や価値観に触れることで、思いがけない出会いが生まれるよう、空間もサービスも、誰にでも開かれた場を目指します

「融合」

2 いつまでも新たな「やりたい」を描ける、成長する施設・運営

- いまの多様な「やりたい」も、みらいの「やりたい」も実現するために、日常的に空間が可変するとともに、サービス・組織にも柔軟性を持たせます
- 10年後、50年後という時代の変化にも対応できるよう、市民とともにあゆみ、育てち続けていく施設を目指します

「成長」

事業・サービス方針

事業・サービス方針

01 市民の「やりたい」を実現するために、各機能を創造的に融合させる

融合 成長

- 施設の各機能をシームレスに連携させ、横断的なサービスを提供します
- 専門的な知見を活かしながら、柔軟かつ創造的に機能同士を組み合わせます

02 デジタルも活用しながら、施設内外のヒト／モノ／コトをつなげる

融合 成長

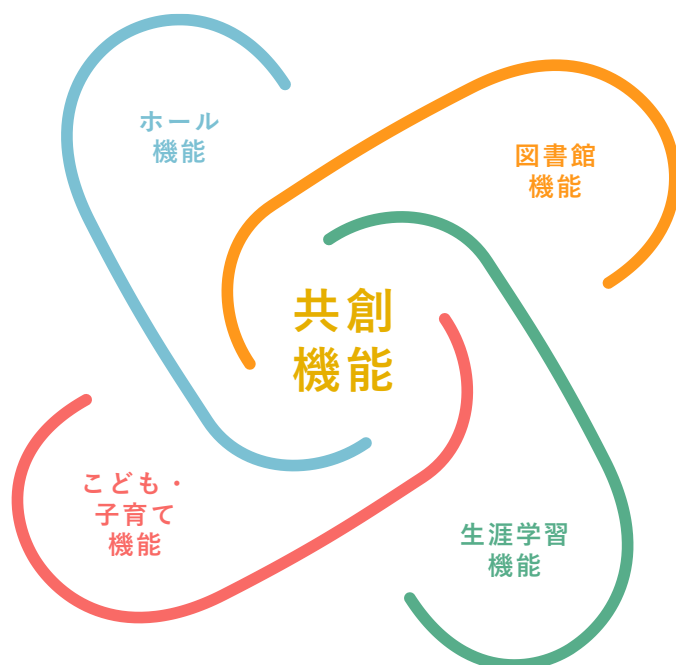
- 多様な資源をつなぐことにより、市民の関心や活動が自然に広がっていく環境を整えます
- デジタル技術も活用し、学びの循環の可能性を拡げます

03 市民が、蒲郡のことをより好きになり、蒲郡の未来を描くことができる

融合 成長

- 特徴的な魅力だけでなく、ひそかに育まれてきた地域の魅力もすくい上げ、市民とともに次の世代へつなぎます
- 市民が蒲郡に愛着と誇りを持ち、未来をともに創る活動の拠点を目指します

みらいキャンパスを構成する機能



みらいキャンパスでは、市民のやりたいことを実現するために、図書館機能、ホール機能、生涯学習機能、こども・子育て機能を基本としながらも、それぞれの枠を超えてつないでいきます。

4つの機能を横断し融合させることで、これまでにないサービスを生み出し、市民と共につくりあげる、そのような機能を、今回新たに「共創機能」と定義しました。

1 共創機能

市民の多様な活動を支え、これまでにない
新たな出会い・交流を創出する「みらいキャンパス」の核

- 情報発信や活動支援・相談窓口など、市民の学びを支え伴走
- 情報や活動との出会いをつくり、ヒト／モノ／コトをつなげるハブ拠点となる
- 学習環境を整えるとともに、訪れやすい施設づくり、支援を行う
- 利用者が使いやすいよう、各機能の窓口サービスを統合

など

主なサービス

情報発信／活動支援、相談窓口／交流促進／若者・こどものつどいの場の形成／
多様な学習環境／地域・企業連携／学び合いの場の創出／貸館管理運営

2 図書館機能

ゆとりのある、居心地の良い空間で、
多様な学び・活動をアウトプットできる自由度の高い“知の拠点”

- 好奇心を高めアウトプットへとつなぐことができるよう、機能を横断して資料を配置し、施設全体で「学び」を提供
- 静かな空間と賑やかな空間の両方を、メリハリをつけて実現
- ライフステージに寄り添った資料・サービスの提供など、これまでの図書館サービスも継続・拡充するとともに、デジタルの活用なども積極的に実施
- 収容能力25万冊（市全体で30万冊程度）を目指し、開架率を60％に拡充

など

主なサービス

資料収集／学びのネットワークを活かしたサービス／本を活かした空間づくり／
デジタルによるサービス拡充

3 ホール機能

多様な活動を表現・発信する、市民が活用しやすい開かれた“共創ホール”

- 文化芸術に触れる体験の提供だけでなく、日常的に多用途に活用できる場
- 適切な鑑賞環境が得られる席数（800席程度）を確保するとともに、周辺スペースと融合、配信等を通して更に多くの人に鑑賞機会を提供

など

主なサービス

多目的な活動・体験・鑑賞の創出／市民による発信・表現の場／多用途に利用できるホール

4 生涯学習機能

生涯学習を通じた学習活動を支える“学びの拠点”

- 文化団体の活動を支援し、多くの市民が学びや文化に触れられる機会を提供
- 市内の各地域にある地区公民館の指導・支援し、地区公民館の連携を強化、市内全域の学びを支援

など

主なサービス

学びを先導する機能／文化的活動の支援・促進／地区公民館を支える機能

5 こども・子育て機能

こども・子育て世代が、気軽に利用できる“こども・子育て交流広場”

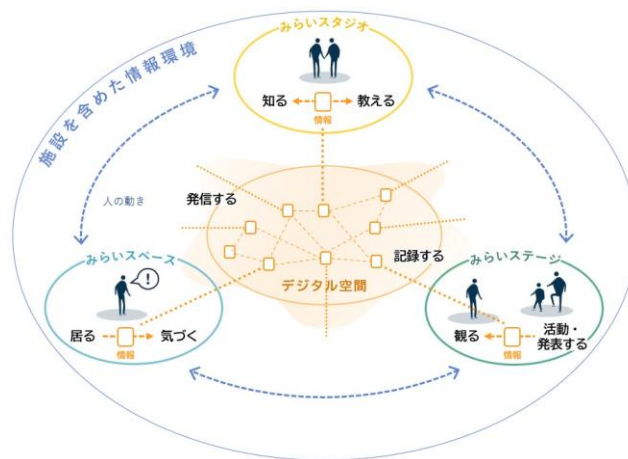
- こども・子育て親子が安心して過ごせる場をつくり、セミナーや活動を通して学びや交流の機会を提供
- 中央子育て支援センターでの事業拡大だけでなく、本施設に複合されるからこそ実現できる事業・サービスに対応

など

主なサービス

こども・子育ての交流の場づくり／こども・子育て相談／こども・子育てに関する情報発信／こども・子育てサポート

事業・サービスを支える情報環境の考え方



- 学び始めるきっかけ、人と人とのつながりを生み出す出発点を情報ととらえ、情報へのタッチポイントを、施設内とデジタル空間の両方につくります
- 多様な活動を収集・記録・発信することで、現在への発信だけでなく、市民の今の興味・活動を未来に向けて蓄積、発信します
- 情報を通じてヒト・モノ・コトに自然と触れ、市民が自分の「やりたいこと」に気づくことができる環境を目指します

施設整備方針

01 多様な活動が生まれる「融合」空間の創出

融合 成長

- 多様な活動が相互に刺激を与え、関心が広がるような空間・活動の「見える化」を促します
- 来館者が様々な活動に自然に出会えるよう、施設内外の動線にも配慮します

02 興味の変化に対応し、永く愛される空間の実現

融合 成長

- 多くの興味関心や様々な世代が1日の中でも使用することを踏まえ、使い方に自由度があり、可変性のある空間とします
- 使い方を思いどおりに選択できる空間をつくることで、利活用の創造が膨らむ空間、永く愛される市民の居場所を目指します

やりたいを実現する施設の在り方

市民ワークショップで得られた市民の皆さんの様々な「やりたいこと」を踏まえ、本施設に必要な機能を「部屋」ではなく「場」として設定しました。

	みらいスペース 憩い・つながる場 自由な居場所であるとともに、 蒲郡の多様なヒト・コト・モノが出会い、 つながる	みらいスタジオ 知の拠点 新たな知識・情報・経験に触れ、 「知りたい」学び「やってみたい」活動を深め、 高めていく	みらいステージ 発信・表現の場 学び、活動したことを発信や表現によって 人に伝えて、学びが循環し、 一人ひとりがかがやく
ひとりで	ひとりだけの時間を大切にできる。 ほっと一息ついたり、 自由にくつろいだりできる場。 → ほっとくつろぐ場	勉強、読書、仕事、調べもの、本探し…。 ひとりでやりたいことに じっくり向き合う場。 → じっくり集中する場	好きなこと、今ハマっていること、 面白かったことなどを、 自由に発信できる場。 → じわじわ発信の場
だれかと	だれかと待ち合せたり、 おしゃべりしたり、買い物したり。 賑やかな声と雰囲気が広がる場。 → がやがやおしゃべりの場	共通の趣味の情報交換、ミーティングなど。 本のある空間で、 だれかと何かを語り合う場。 → わいわい学び語る場	ちょっとした工作からデジタル工作まで、 つくりたいものを だれかと一緒に作れる場。 → ガチャガチャものづくりの場
みんなで	子どもがのびのびと遊び、学べる。 大人たちが見守りながら、 みんなで未来を育む場 → すくすく育みの場	興味のある講座に参加したり、講座を開いたり、 「学びあい」から 発見と体験がある場。 → わくわく発見・体験の場	芸術を鑑賞する、 日ごろの成果を発表する等、 生のパフォーマンスで感性を育む場。 → キラキラパフォーマンスの場

ひとりで

ほっとくつろぐ場



- ・本をゆっくり読む 図
- ・飲食をしながら、くつろいで過ごす 共
- ・ただただ、ひとりでぼーっとする 共

ラウンジ／ブラウジングスペース

だれかと

がやがやおしゃべりの場



- ・キッチンカーやマルシェで購入 共
- ・休憩、軽飲食をしながら過ごす 共
- ・屋外で読書をして過ごす 図

カフェ・ショップ／蒲郡情報コーナー／屋外広場

みんなで

すくすく育みの場



- ・子どもが気軽に来られる こ
- ・遊んで過ごせる（プレイルーム） こ
- ・子どもと絵本を探せる＋読み聞かせ 図

プレイルーム／託児室／相談室／児童開架／お話室／和室／学習スペース（子ども）

じっくり集中する場



- ・本をじっくり読む 図
- ・本を探す・借りる 図
- ・集中して勉強・作業する 共

学習スペース／グループ学習室／無数の本に囲まれた場／予約本コーナー／対面朗読室

わいわい学び語る場



- ・本棚や展示のある空間 共 図 ホ
- ・誰かから学ぶ、教わる 共
- ・数人でミーティングをする 共

グループ学習スペース／ワークスペース／ミーティングスペース／ティーンズ

わくわく発見・体験の場



- ・壁を活用したギャラリー 共 ホ
- ・ワークショップ、レクチャー 生
- ・音楽やダンスの練習 共 生

ワークショップスペース／調理スペース／企画展示コーナー／視聴覚資料コーナー／地域資料コーナー／多目的ホール／練習室

じわじわ発信の場



- ・市民自ら情報発信を行う 共
- ・施設内外の活動や情報の発信を行う 共 図 ホ 生 こ

メディアアートギャラリー

ガチャガチャものづくりの場



- ・工作機器やスペースを使う 生
- ・活動企画やミーティング 共
- ・本棚、台での作品展示 共 図

ものづくりスペース

キラキラパフォーマンスの場



- ・ホールでのパフォーマンス ホ
- ・通りがかりに気軽に見られる 共 ホ
- ・周辺に関係のある本がある 図

ギャラリー／メインホール

過ごし方

スペース

過ごし方

スペース

過ごし方

スペース

みらいキャンパスの空間イメージ

「9つの場」が施設全体に展開したイメージ図です。

場同士が横にも縦にもつながることで活動の相乗効果を生み出します。

- まちに開かれ、訪れやすい施設づくり
- 図書エリアは活動と合わせて施設全体に展開
- 活動の様子が感じられ、施設を巡りたくなる立体的な空間づくり
- 誰もが使いやすい、安全・安心な施設づくり
- まちの景観との調和、環境負荷低減にも配慮
- 社会情勢を注視した、建設コストの適正化

機 能	面 積
全体管理諸室等	3,090㎡
共創・生涯学習機能	1,670㎡
図書館機能	2,260㎡
ホール機能	4,510㎡
こども・子育て機能	320㎡
設備	2,100㎡
合計	13,950㎡



管理運営方針

管理運営の条件設定

01 融合・成長を分断しない利用時間・利用ルールの設定

融合 成長

- 複合的な機能の連携を最大限に活かすため、利用時間やルールを原則として全体で設定します
- 一部の機能において分ける必要がある場合は、全体の一体性を損なわない工夫を行います

運営組織方針

01 従来の機能にとらわれず、一体性、横断性のある組織とする

融合 成長

- 担当業務外の内容にも基本的な理解をもった、一体的な運営体制とします
- 情報システムの活用により業務の共有や効率化を図るとともに、状況の変化に応じて組織構成や役割を柔軟に調整できる体制を目指します

02 専門性と多様性を両立し、継続的な育成を行うことで、対応力を高める

融合 成長

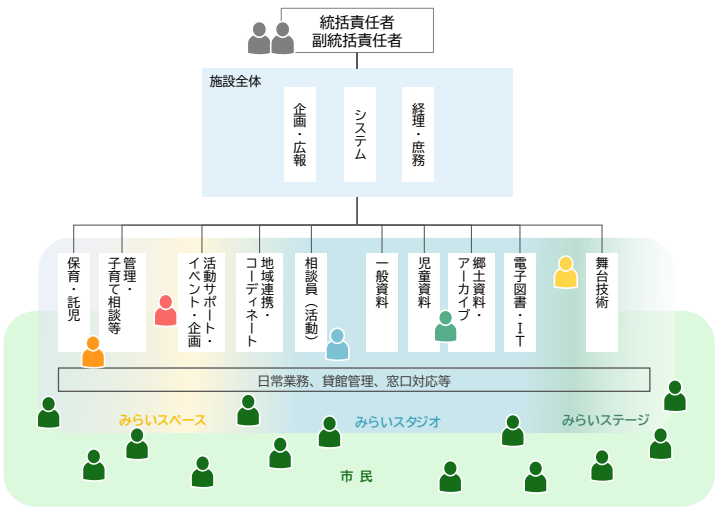
- 専門性の高い職能は確保しつつ、役割や能力を柔軟に組み合わせて活用することで横断的に融合したサービスを実施します
- 継続的な人材育成の仕組みをつくります

03 働く人が成長を実感でき、持続的に力を発揮できる環境づくり

融合 成長

- 柔軟な人員配置や働きやすさに配慮した労働環境を整備します

運営体制



本施設の運営は、市民と行政が共に
つくり、育てていくことを前提とし
ます。

その上で、各分野の担当者が密接に
連携し、情報を共有しながら、施設
全体を一つのチームとして動かして
いくような体制が必要です。分野を
越えて横断的に見渡し、業務を調整
できる体制を想定します。

敷地計画

敷地概要



所在地	蒲郡市宝町の一部
事業地面積	約14,600㎡
アクセス	蒲郡駅北口から徒歩4分

- 蒲郡市の中心市街地に位置し、暮らしや観光の拠点となっています
- JR線・名鉄線より北側に位置し、駅前の商業地域と準工業地域にまたがっています
- 周辺には、学びや活動、体験に関する施設が多数あります
- 事業用地の北側に面する道路を拡幅し、安全な歩行者動線と車両動線を確保します
- 事業用地の中央にある道は廃し、事業用地に取り込む予定です

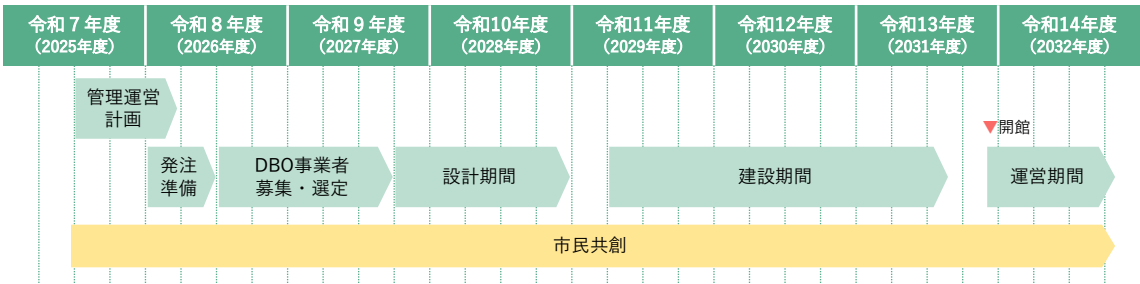
駐車場・駐輪場

- 敷地内には、日常利用において不足とまらない程度の駐車場・駐輪場台数を確保します
- 集客力のあるイベント時は、周辺施設を活用して対応します

駐車場	100～150台	+ 周辺施設
駐輪場	20～60台	

事業化計画

- 事業手法は、基本理念と施設コンセプトの実現、費用削減効果、民間ノウハウの活用可能性や参入可能性などを踏まえ、施設の設計、施工、維持管理、運営を一括して性能発注する手法、DBO（Design-Build-Operate）方式を導入します
- 開館は、令和13年度末ごろ（令和14年春）を予定しています





みらいキャンバスは 市民の「やりたい」を 共に実現していきます

本計画期間中は、ワークショップを通して、
多くの市民の方に本プロジェクトにご参加いただきました。
これからの活動の主体となる市民一人ひとりのアイデアを整理し、
検討を重ねた結果、本計画が出来上がっています。
開館までには、管理運営計画、設計、工事、開館準備と
多くのステップがあります。
施設が完成するまで、市民が気軽に立ち寄れ、実際に活動できる拠点として、
市民共創プラットフォームという「場」を立ち上げていくことを目指しています。
がまごおり「みらいキャンバス」は、
既に参加されている方々、これから出会う方々と共につくりあげていくものです。
一人ひとりの「やりたい」が重なり合って、
大きな未来の絵が描かれていくことを目指していきます。

これからも多くの市民の皆様のご参加をお待ちしています！



情報はここから！

